

(1) 防災・減災をインターネットで学ぶ

◇みんなて学ぶ防災・減災(清流の国ぎふ、防災・減災センター)

『みんなて学ぶ防災・減災 ～清流の国ぎふ、防災ノート～』は、清流の国ぎふ、防災・減災センターが小中学生に向けて自助の意識を醸成するために作成した無料の Web 教材ですが、地域の災害リスクや災害時にとるべき避難行動を学ぶことができ、大人が利用してもなかなかためになる内容となっています。

(小学校1・2・3年生用教材 URL:<https://gfbosai.jp/e-book/esl/>)

(小学校4・5・6年生用教材 URL:<https://gfbosai.jp/e-book/esh/>)

(中学生用教材 URL:<https://gfbosai.jp/e-book/jh/>)

◇災害から命を守る岐阜県民運動 公式 YouTube チャンネル(岐阜県防災課)

岐阜県防災課では、県民総ぐるみで自助・共助の底上げを図る『災害から命を守る岐阜県民運動』を展開しており、その一環として災害から命を守る防災啓発動画(YouTube)が公開されています。

岐阜県、清流の国ぎふ、防災・減災センター、ぎふチャン(岐阜放送)がタイアップして制作した『進め!防災探検隊』シリーズや、お笑い芸人やす子さんが出演する『ACT NOW!岐阜防災』シリーズ等があります。過去の災害から得た教訓などから、災害への備えや対策、災害時にどのような対応・行動・避難をするべきかについて、楽しく分かりやすく紹介されているので、堅苦しくなく視聴できます。

(URL:<https://www.youtube.com/channel/UCjTZaXK7JabdWqpCZeUJgFA>)

◇防災シミュレーター(内閣府)

内閣府防災情報公式ホームページにある『防災シミュレーター』には、楽しみながら学べる3つのコンテンツと各都道府県が運営している防災に関するホームページの一覧があり、無料でご利用いただけます。

このうち『震度6強体験シミュレーション』では、最初に「家具固定のあり・なし」、「耐震強度のあり・なし」から自宅の状況を選択するとゲームが開始し、大地震が起きた際の各場面で正しいと思う行動を選択します。選択を間違えると初期値100ある「生き残りレベルゲージ」が減ってしまい…。そんなシミュレーションゲームを通して、各場面での正しい行動と重要ポイントが示され、「どんな予防対策を取るべきか?」、「どんな避難行動を取るべきか?」を学ぶことができます。

(URL:<https://www.bousai.go.jp/simulator/index.html>)

◇防災・危機管理 e カレッジ(総務省消防庁)

『防災・危機管理 e カレッジ』には、「こども向け」、「一般の方向け」、「市町村の方向け」の無料コンテンツがあり、自治体の防災・危機管理関係の職員だけでなく、子どもから大人まで防災の知識や災害に危機管理について学ぶことができます。

また「一般の方向け」のコンテンツは、「防災危機管理者」という民間資格において自主学習教材の一つとして指定されています。

(URL: <https://www.fdma.go.jp/relocation/e-college/index2.html>)

◇消防防災博物館(一般財団法人消防防災科学センター)

『消防防災博物館』は、一般財団法人消防防災科学センターが運営している Web 上の仮想博物館で、消防や防災に関する様々なコンテンツがあります。

このうち『防災の世界』では、災害の基礎知識や備え、防災まちづくりの事例等が学べるだけでなく、被災した場合に申請する各種支援についても学ぶことができます。

また多言語で作成された消防防災関連のパンフレットの閲覧も可能です。

(URL: <https://www.bousaihaku.com/>)

(2) 防災・減災に関するミュージアムを見学する

◇岐阜県広域防災センター(岐阜県 防災課)

岐阜県広域防災センターでは、地震体験車より臨場感がある地震体験(6つの大地震を再現できる他、地震発生後、倒壊した街並みが映し出される「バーチャルウォール」や、食器棚から食器が飛び出す仕掛けのある「からくりウォール」が備えられている)、専門職員から消火器の操作方法や構造について説明が受けられる消火器訓練、避難所生活の疑似体験ができます。また 10 名以上の事前予約があれば濃煙の中での避難体験もできます。

また風水害、雪害、火山、林野火災、消防団について分かりやすく解説したパネルの展示や、発電機、毛布、災害時用入浴システム、テント、ブルーシート等の災害時に必要とされる防災用資機材が多数保管された防災備蓄館も見学できます。

(URL: <https://www.pref.gifu.lg.jp/page/11678.html>)

◇岐阜県さぼう遊学館(岐阜県 砂防課)

『遊学館』は、土砂災害に関する知識を深め、適切な避難の方法について学び、研修していただくための施設です。

「展示室」にて、土砂災害や土砂災害による被害に遭わないための必要な知識をパネルや映像資料等により学習できます。

また「学習室」では大型スクリーンで 3D 映像による土砂災害の疑似体験ができる他、事前予約があれば土砂災害や防災に関する専門家による研修を無料で受けることができます。

(URL: <https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2259.html>)

◇減災館(名古屋大学減災連携研究センター)

『減災館』は、名古屋大学減災連携研究センターの建築耐震技術の開発や実験を行う施設なのですが、一般見学が可能です。

毎日1回開催されるセンターの教員によるギャラリートークと長周期地震動再現装置BiCURI(高層建物の中で巨大地震に遭遇した時の揺れを映像と共に振動台を使ってリアルに再現できる実験装置)のデモンストレーションが見どころです。

また、建物や地盤の揺れ、耐震化について体感できる模型教材コーナー、ライフラインである電気、都市ガスについてビデオで学べるコーナー、防災の科学的基礎知識を紹介しているコーナー(被害想定、津波、液状化、経済、情報、心理、都市計画)や、地震災害に関する歴史資料、古地図、ビデオ、新聞記事、各地のハザードマップなどが充実しています。

(URL: https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/?page_id=4890)

◇全国の防災・減災ミュージアム

全国には、地震災害や土砂災害について学べるミュージアム以外にも台風や津波、原子力の災害をテーマとする防災・減災ミュージアムなども数多くあります。下記ホームページを参考にして、防災・減災ミュージアムにお出かけしてみたいはいかがでしょうか。

- ・「市民防災ラボ」のホームページ

全国の防災体験館・防災センターの施設検索ができ、また体験レポートの掲載もあります。

(URL: <http://bosailabo.jp/research/museum.htm>)

- ・「特定非営利活動法人土砂災害防止広報センター」のホームページ

全国の砂防資料館等一覧が掲載されています。

(URL: https://www.sabopc.or.jp/share/share_category/share_siryo/)

(3) 防災・減災に関する座談会に参加する

◇げんさい楽座(清流の国ぎふ防災・減災センター)

『げんさい楽座』は、大学教員等による講話や参加者間での意見交換・情報交流を深めること等を目的に、平成27年8月から定期的で開催している交流の場で、防災・減災への関心を深め、知識を得ることができます。参加者が相互に理解を深めることで、お互いに顔の見えるネットワークを構築し、災害に強い地域社会を創りだすことを目指し、県内の各所で開催しています。

(URL: <https://gfbosai.jp/category/rakuza/>)

参加方法は現地参加だけでなく、オンライン視聴(清流の国ぎふ防災・減災センターFacebook 利用)も可能です。

(Facebook: https://www.facebook.com/gifu.bousai.gensai?ref=embed_page)

また、清流の国ぎふ防災・減災センター公式YouTubeチャンネルでは、過去の『げんさい楽座』の視聴ができますよ。

(URL: <https://www.youtube.com/channel/UCUJpUvIuoHL6MPI9nb9t0XA>)

◇げんさいカフェ(名古屋大学減災連携研究センター)

『げんさいカフェ』は毎月1回、名古屋大学減災館で開催されており、名古屋大学減災連携研究センターの教員が講演者・司会者を務め、自然災害に関する様々な現象に対する一般市民の疑問について分かり易く解説するイベントです。現地参加とオンライン参加(zoom ウェビナー利用)を選択できます。

(URL:<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/?p=87>)

(4) 防災・減災に関する講演会を聴講する

◇シニア災害ボランティアシンポジウム in 岐阜(岐阜県地域福祉課)

岐阜県では、社会経験豊富なシニア層を中心とした幅広い世代の方に、災害ボランティア活動にご参加いただけるよう、過去の災害で「市民の力」、「地域の力」で対応した優れた事例などについて学ぶシンポジウムを例年1月に開催しており、今年度も開催予定です。

※タイトルに「シニア」とありますが、幅広い年齢層の方にご参加いただけます。

- ・日時:令和7年1月20日(月)14:00~16:30(開場は13:30)
- ・会場:岐阜県庁1階 ミナモホール(岐阜市藪田南2-1-1)
- ・参加費無料
- ・申込方法:インターネット・メール・FAX(※申込開始日は後日お知らせします。)
- ・申込期間:12月上旬~令和7年1月13日(月)

◇岐阜県気象台講演会(岐阜県気象台主催)

岐阜地方気象台では、岐阜市及び岐阜市自主防災組織連絡協議会と連携し、自主防災組織及び一般の方を対象に、防災知識の普及啓発及び自然災害による被害の防止・軽減を図ることを目的として、例年11月に講演会を開催しています。

今年度の講演会テーマは「地震」です。

- ・日時:令和6年11月4日(月・祝)9:30~11:30(開場は9:00)
- ・会場:じゅうろくプラザ(5階大会議室) 岐阜市橋本町1丁目10番地11

(令和6年度のチラシ:

<https://www.data.jma.go.jp/gifu/shosai/bosai/img/R6kouenkaichirashi.pdf>)

◇防災アカデミー(名古屋大学減災連携研究センター)

名古屋大学減災連携研究センターは、毎月防災を支える市民団体や一般市民に向けて開催する防災関連の講演会を開催しています。主なテーマは東日本大震災と今後の巨大地震で、最先端の減災研究を分かりやすく解説しています。

会場は名古屋大学減災館ですが、現地参加とオンライン参加(zoom ウェビナー利用)を選択できます。

※過去の講演は、減災館の2階減災ライブラリーでDVD視聴できます。

(URL:<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/?p=75>)

(5) 防災・減災に関する出前講座を依頼する

◇県職員出前トーク(岐阜県広報課)

岐阜県では、県政の重要課題や生活に身近な話題について、県民の皆さまが参加する会合などで県職員がお話をする「県職員出前トーク」を行っています。

テーマは、県が重点的に取り組んでいる事業や暮らしに身近なものを幅広くそろえております。その中に「地震対策」、「風水害対策」、「土砂災害対策」、「雪崩対策」、「災害時におけるボランティア活動」、「農村地域における防災対策」など、防災をテーマとしたものも数多くあります。どうぞお気軽にご利用ください。

(URL:<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/168.html>)

◇地域づくり型生涯学習講座コーディネーター事業(岐阜県県民生活課)

岐阜県では、個人が生涯学習を通じて身に付けた知識・技術・経験等を、地域課題の解決のために役立てていく「地域づくり型生涯学習」を推進するため、講師又はコーディネーターの派遣を行っています。

例えば「共生社会実現に向けた、地域住民の相互理解を促進するための人権に関する講座」、「子育て支援、青少年育成、高齢者福祉などの、地域課題解決に向けたまちづくりに関する講座」、「命を守る」ための防災について、地域ぐるみで考える防災に関する講座」などを地域の課題解決に向けた様々な講演を行います。

10人以上の団体(団体規約があること)であれば、講師の派遣を依頼することができ、講師等の謝金や旅費については岐阜県が負担いたします。

(URL:<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/390946.pdf>)

◇岐阜県気象台出前講座(岐阜県気象台)

岐阜地方気象台では、気象・地震に関する知識の普及を図ることを目的に、気象台職員を講師として派遣する「出前講座」を無料で行っています。

主に「気象に関すること(気象現象のメカニズムや天気予報のしくみ)」、「地震・火山に関すること(地震や噴火のメカニズムなど)」、「注意報・警報などの防災気象情報に関すること」、「地球温暖化や気候変化に関すること」など、気象・地震・火山に関することについての講演となります。

「出前講座」の依頼には、特段に何人以上の集まりでなければならないというきまりはないので、お気軽にお問い合わせください。

(URL:<https://www.data.jma.go.jp/gifu/shosai/annai/demae.html>)

2. 防災士になりませんか

防災・減災に関する民間資格や国家資格はいくつかあり、岐阜県や各市町村の防災担当課にお尋ねしたところ、「地域の防災担当となり、防災知識を身に付けたい方」、また「災害ボランティアとして県内外で活躍したい方」には『防災士』の資格取得をお勧めされました。

「自助」のための勉強から一歩進んで、「共助」のために必要な知識や技能についても学び、地域の防災・減災に参加するのも素敵ですよ。

◇防災士

『防災士』とは、“自助”、“共助”、“協働”を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を修得したことを日本防災士機構が認証した全国で通用する民間資格です。

防災士になるには座学やグループワークだけではなく、技能実習や試験を受ける必要があります。『防災士養成研修講座』や『救急救命講習』を履修した上で、『防災士資格取得試験』に合格しなければなりません。(別添1「防災士の資格取得の流れ」参照)

(救命講習は受験後に受講しても構いません。)

試験を受けるなんて聞くと、ちょっと敷居が高く感じるかもしれませんが、昨年度(令和5年度)の試験合格率は約92%でそれほど難易度は高くありません。過去には80歳以上の方が防災士になった事例もあるそうですよ。

さて『防災士研修講座』ですが、「自宅学習(履修確認レポート/試験対策学習)」と「会場研修(座学/グループワーク)」の2本立てで構成されています。

清流の国ぎふ防災・減災センター(岐阜県と岐阜大学が共同設置した防災・減災に関するシンクタンク組織)が開催する「清流の国ぎふ防災リーダー育成講座(基礎編)」や一部の県内市町村が開催する「地域の防災リーダー養成講座(市町村によって名称は異なる)」がこの「会場研修」にあたります。

本来「会場研修」は、「受講料(50,728円)」、「防災士教本代(4,000円)」、「防災士資格取得試験受験料(3,000円)」、「防災士認証登録料(5,000円)」が必要となります。

しかし、岐阜県や県内市町村の「防災リーダー養成講座」は防災人材育成事業のため、受講料については無料となっているため、取り組みやすいのではないのでしょうか。

そして、教本代、受験料、登録料についても、一部の市町村では住民に対して、一定条件下で、一部または全額の助成を行っているため、受講手続きをする前にお住まいの市町村の防災担当課にお問い合わせください。